

取り組みから

実行委員でもあり、
全体集会の司会を務
めた、黒澤学さん(左)
大川昌子さん(中) ▶



協同集会で気づいたこと・考えたこと

大川 昌子 (センター事業団
組織部社会連帯委員会)

今年度から、センター事業団に社会連帯委員会が新しく設けられました。11月の「協同集会」の準備はすでに一昨年から実行委員会が開かれてきていた事も知らないまま、8月の末から、仙台に滞在して、地元での準備に入りました。正直言って、社会連帯委員会の役割が、勉強できればいいなあと感じていました。市民活動をこれまで仙台で長年行ってきた会の代表者に会って話をしていく内に、「労働者協同組合」という名前や活動の中身が伝わって行き、「協同集会」を成功させようという思いを持って集まってくれる人々が増えていきました。最初に、ポスターやチラシといった宣伝物も東京の業者でなくて、地元で作ろうと紹介してもらった方が、「市民活動支援システム研究会」というような、NPO支援型のNPO組織に属している方だったりして、「仙台の市民活動のネットワークは進んでる」と直感し、学ぶ事がいろいろあるなと感じました。「阪神大震災」で、「市民ボランティア」として活躍した人々も多く、市民活動のネットワークを進める動きが、いち早く始まっていました。

これまで、「労働者協同組合」は、協同組合運動として、「新しい働き方」ということに強くこだわってきたと思います。私は、ここで働いてまだ4年ですが、「労協新聞」は11年くらいとっていましたので、そういう印象があります。こちらで働く前は、神戸のNPO団体で貧しく専従事務局をやりながら、アマチュア劇団に属していたので、その頃、「事業団新聞」で中西五洲さんは格好いいなと思いながら、「7つの原則」に、蛍光ペンで線をひいたのを覚えています。「新しい働き方」というのはよく分からなかったし、「地域に役立つよい仕事」という思いより、「自分さがし」の比重が大きかったんだなあと今は思います。お金のない団体が多く、いかに助け合って、行政等から助成してもらうか、安く公共施設を借りるか等の課題で協力していたことを覚えています。

「労働者協同組合」は「非営利組織」といいますが、市民活動をしている人々の中で、共感を得られるようになったのはなぜなのかなあと考えてみました。振り返って、4年前は「なぜそんな所で働くのか」と、素朴に聞かれ、高齢者も働ける

仕事場を作りたいというような事は、「先々必要だね」という反応であったと覚えています。でも、近頃では、「自分たちで仕事を起こすこと」「地域に役立つ仕事をしたい」「高齢者が助け合う協同組合をつくりたい」という事はすんなり共感してもらえます。何なんだろうと思います。バブル経済の崩壊以降、そして震災以降の意識の変化を感じます。人々は、「まやかし」でない、足腰が強く、「本物」を求めているのだと思います。

「市民活動」を行っている人々の活動内容や住所録が載った本や冊子がすでに発行されていますが、その種類とグループ数の多さに驚かされます。こだわりはとても強いが、グループ名をユニークで、柔らかくし、かたかな・ひらがな・英語にして、敷居を低くして誰でも仲間になれる印象が持てます。ジャンル分けは、「環境」「女性」「文化」という風に簡潔でなく、「安全な野菜を食べる」「高齢者を豊かに暮らす」等、長い表現になり、その中に、幾種類もグループがあるわけです。「労働者協同組合」はどこに属するかという様々な事をやっていて、一ヶ所には当てはまりません。「協同組合」はそういう場合が多いと思います。様々な活動を行う事業体という印象があります。そこでは、特定の政党に係わっていないという事が広く市民に開かれるためには重要なようです。

具体的な仕事の中身での事では、環境をよくする為の市民活動に係わる人々は多くいらっしゃいます。例えば、安全な食物のことや、リサイクルのことを考えている方は、院内感染対策を考えた仕事をする「病院清掃」の話に共感してくれます。「高齢者問題」に取り組み、介護の事を一生懸命研究されている方々も「高齢者は働ける内は働きたい人がある」という事はとても大切な事として受けとめられます。先日も、若者が多くアルバイトで働く、岩切事業所を夜の10時ころから、東北学院大学の仁昌寺先生と一緒に訪問しました。数人の若者がその大学の出身者、在学者、中退者だったという事で、若者達と先生は嬉しそうに雑談

していました。教育者のサポーターは、心温まるものがあります。

私は「無茶々園」の蜜柑の販売等の仕事を、一昨年の冬にやっていました。まだ小学生の頃、実家でも、蜜柑が過剰生産の為、それだけでは食べていけない時代でした。無農薬・有機栽培に取り組みはじめた人々がその時代にいた事に感動して、産消連帯ネットワーク運動を頑張っていました。そして仙台では、すでに何年もまえから、共同購入会等で取り扱われていて「あの無茶々園も労働者協同組合の仲間なの」といわれ、新参者にとっては、労協グループは強い味方になるのだと認識しました。

「情報は人にあり」という事だと思います。「労働者協同組合」が「複合的」に活動の範囲を広めてきた事が活かされているし、様々な活動をしている人々と出会える組織なんだと分かってきました。もちろん、「協同組合」にこだわって、事業を行っている方もいらっしゃるし、「ワーカーズコレクティブ」を作りたいという仲間も表に見え始めました。事務局の役割も多くなって大変ですが、「専門性」を持ち、市民活動にかかわっている人々と交流する事は楽しいし、情報交換の場となると思います。社会連帯というと、何だか固い表現で、少し抵抗がありました。が、「労働者協同組合」では、これから必要な課題だと思います。多くの人々と出会って集会は成功しましたが、実際は、地域の中で「市民権を得る」「助け合える人ができた」「情報交換を行える場ができた」等が現在の段階と思います。その中から、新しい仕事の目を広げ、「労働者協同組合」が大きくなっていけばいいなあとは思っています。たくさんの方々の協力に感謝したいと思います。